

## 大学入試改革フォーラム ～高大接続をテーマに～

## ■パネルディスカッション「高大接続をどう進めるか」

<パネリスト> 50 音順

**鎌田 薫**（日本私立大学連盟会長、早稲田大学総長、教育再生実行会議座長）

**川村 隆**（日立製作所前会長）

**小林 浩**（リクルート進学総研所長、「カレッジマネジメント」編集長）

**宮本久也**（全国高等学校長協会会長、東京都立西高等学校長）

**山口佳三**（国立大学協会理事、北海道大学学長）

<コーディネイター> 古沢由紀子・読売新聞東京本社論説委員



鎌田 薫



川村 隆



小林 浩



宮本久也



山口佳三



古沢由紀子

——文部科学省では2020年度に大学入試センター試験の後継となる大学入学希望者学力評価テスト（新テスト）を始めるほか、個別の大学には多面的な選抜の導入を促しています。改革をどう受け止めていらっしゃいますか。

**山口** 国立大学全体として、AO（アドミッション・オフィス）入試の枠を募集人員の3割に増やすという目標を掲げています。新テストの実施については、国立大学協会（国大協）の入試委員会が文部科学省と中身を詰めているところです。

共通一次試験の時代から、国立大学は入試で主導的な役割を果たしており、その責任を自覚し、後戻りなく改革を進めていきたいと思えます。ただ、20年度の新テスト実施は改革の入り口であり、高校の学習指導要領の改定もふまえ、試験の中身を育てて行くには10年かかるでしょう。

**鎌田** いい学生をしっかりと確保することが、私立大学存続の一番の基盤です。入りたいという人を効率的に選ぶのではなく、育てたい学生を取りに行く方向に転換する必要があります。大学はこれまで、たった1日か2日のペーパーテストで学生を選び、高校では、試験に必要な技術を身につければいいという風潮が続いてきました。

個性や学習意欲をきちんと評価し、伸ばしていけるような入試が必要です。早稲田では入学後の成績が最も良いのはAO入試、次いで推薦入試で入学した学生です。AO入試はやり方次第で、学習意欲が旺盛な人



## 大学入試改革フォーラム ～高大接続をテーマに～

をしっかりとることができます。留学生も増えているなか、世界標準に合わせた AO 型入試が発展するのは必然的な流れです。

**川村** 国内のことだけを考えていけばいい時代は終わっています。日立グループでも国内と国外の仕事が半々で、従業員も日本人が 6 割で 4 割が外国人という状況です。グローバルな人間になることは、非常に大きな要件になっています。

内にこもらず、ソニーがウォークマンを生み出したような技術革新の力を復活させることも必要です。世の中の課題を自分で見つけ出し、解決することが求められる中、今の 1 点刻みの入試は、かなり悪影響を及ぼしているのではないのでしょうか。答えのわかっている問題を短い時間で解ける人を評価するのはどうか。過去の知識だけを問い、わずかな得点差で選抜するような入試が変わればと期待しています。

我が社では、新入社員約 1000 人を海外に 4、5 か月派遣しているが、皆大変驚いて帰ってきます。どうして自分の英語が通じないのか、なぜあんなに貧しい人がいるんだろうとか。企業が現地で税金を納め、従業員に給料を払うことにより、社会が貧困から脱出するんだ、と話し合います。しかし、考えてみると、そういう体験は高校か大学のうちにしておいてもらいたいのですね。新しい入試方式になることで、そういうことができる可能性が増えるとういと思います。

**小林** いま中小も含めて企業の課題になっているのが、指示待ち社員です。テーマを与えればきれいに仕上げてくるが、「君はどうしたいの」と聞くと固まってしまうのです。

日本人の高校生はチームワークは非常にあり、「空気を読む」力は持っていますが、発信力や行動を起こすことは弱い。大学入試では、文系・理系の別や進学先を受け身で選択していくのではなく、自分の意志できちんと考えて答えを出せるようにすることが必要です。

**宮本** 昨年夏、米国の大学を視察しましたが、非常に時間をかけて丁寧に受験生の能力をみていました。そういう選抜が日本でできるのかという不安があります。

西高では、基本的に最後まで頑張ってセンター試験、一般入試を受けるよう指導しています。AO 入試や推薦入試の割合が増えれば、不合格になった生徒は一般入試で再チャレンジすることになり、入試が早期化、長期化する心配があります。大学には、AO 入試の評価基準の公表など、透明性の高い選抜にしていきたいと思います。

## ——個別の大学では、どのような改革を進めるのでしょうか。

**山口** 北大では、「未来型人材育成選抜試験」の開発を進めています。北大が求める学生像を「北大版コンピテンシー（能力・適性）」として打ち出し、受験生が北大で何をしたいかという意欲を測る適性検査的なものを考えています。高校の調査書もきちんと見る体制をつくり、課外活動や（国際的な大学入学資格）国際バカロレアで入る選択肢もつくる。透明性のある様々な評価基準で、多様な学生を選抜する仕組みを作り上げたいと思っています。高校から大学、さらに企業に入ってから、その学生がどう変わったか追跡調査できる仕組みもつくりたいですね。改革には時間も人も必要ですが、基本的に 20 年度の新テスト開始に間に合うよう準備を進めています。

**鎌田** 早稲田大では地方出身者の割合が減っており、今は学生の 7 割が関東地方の出身となっています。早稲田の風土の源泉は、個性豊かな色々な人が集まり、切磋琢磨することにあります。地方出身者向けの奨

## 大学入試改革フォーラム ～高大接続をテーマに～

学金とセットで、地域に貢献する学生を対象にした入試を新たに始めます。外国人留学生も増やすなど、様々な意味での多様性を確保していきたいと思っています。

——**経済的格差が教育の機会に影響しているとの指摘が目立っています。日本では、合否結果が試験の点数に基づいていないと、公平ではないと言われています。**

**小林** 日本では、まだ1点刻みで従来型の学力、知識の量を量ることが「フェア（公平）」だという意識が根強いようです。しかし、企業の採用やオックスフォードなど海外の大学は、適性や潜在力もみています。従来型の知識だけで序列化するのが公平だという価値観を、変えていく必要があると思います。



——**センター試験に代わる新テストでは、国語と数学に記述式を導入するのが柱です。課題だった採点を、各大学で担う案が浮上しています。**

**山口** 各大学で記述式問題を採点することは、一つの選択肢として国立大学協会と文科省の作業部会で検討している段階です。年内に方向性を出したいと思っています。

**鎌田** 私立大にとっては、採点期間の問題や、併願が多い場合の対応など課題はありますが、記述式問題を導入すれば、高校で日常的に文章を書かせる指導が定着する効果が期待できます。昔は各大学が手間をかけて記述式の採点をしていました。(フランスの大学進学試験)バカロレアなどでも長文の論文を課しています。日本でも、必ずしも統一採点が不可能というわけではないでしょう。

**宮本** 記述式問題の導入には基本的に賛成ですが、採点期間を確保するためにテストの実施時期が早まり、授業が間に合わなくなるようなことは避けてもらいたいですね。中高一貫でない高校では3年生で初めて学習する科目もあり、今もセンター試験までに授業を間に合わせるのがギリギリの状況です。高校で様々な活動をする時間も確保する必要があります。

新テストでは、外部の民間試験を利用して英語のスピーキングテストも導入されますが、受験料負担が過剰にならないよう配慮をお願いしたいと思います。

——**新テストについては当初、一発勝負・1点刻みの入試から脱却するため、年複数回実施や段階別の成績評価などが検討されていました。**

**小林** 多面的・総合的な評価をきちんとしていくためにも、一発勝負ではなく、複数回受験できたほうが良いと思います。たとえば複数回受けて基準となる段階に達すれば、入学前の期間で留学やボランティアもできます。そのためにもCBT（コンピューターによる出題・解答）の開発を進め、うまく活用できればよいと思います。

——**入試と連動して、大学教育、高校教育をどう変えていくべきでしょうか。**

## 大学入試改革フォーラム ～高大接続をテーマに～

**川村** 大学に入っても疲労困憊していて、やる気もない学生がいるのは困ります。努力して力を伸ばした人だけが卒業できるように、成績管理をきちんとしてほしいと思います。入学後の学生の追跡調査もしていただきたいですね。

**宮本** 西高では卒業生を年に何回か招いて話をしてもらっていますが、今の大学がずいぶん変わっており、単位を取るのも大変になったことがよくわかります。

高校との連携が進んでいる大学もあり、研究室の様子を見せてもらう機会などがもっと増えていけば、大学選びにも好影響があると思います。高校と大学が垣根を低くして交流していく中で、理解し合うことが大切です。

**小林** 従来型の入試には、大学入学がゴールになってしまうという課題もありました。中堅や地方の大学では、面接ではなく面談をする中で入学後の意欲を引き出すような「育成型」の入試が始まっています。大学がこんな生徒に来て欲しいというメッセージを出して、それに共感した生徒が受験する「相互選択型」の入試も増えてきています。受動的な学生を、主体的に変えていくことが大切になります。

## ——入試や高校と大学の連携を改革する上で、最も重視すべきだと思う点は何でしょうか。

**鎌田** 大学入試のマークシート化が進んだことにより、高校教育が画一的になりました。大学に入ったとたんに、物事に正解は一つとは限らない、自由に考えろと言われても思考パターンは変わりません。今回進められている入試改革は、小学校から高校までの教育も大学教育も、手を携えて抜本的に変えていきましょうよ、というメッセージです。危機感を共有し、教育改革に全社会をあげて取り組んでいければと期待しています。

**川村** リスクをきちんと取りながら前に進んでいく姿勢を持った人が減ってきたのは、間違いないと思います。新しい入試制度には、大学、高校の教育を変える力があります。この改革を出発点にすれば、前向きにグローバルなことを考え、技術革新ができる日本人が増えていくでしょう。

**小林** リクルートの調査では、従業員 1000 人以上の企業の 4 割以上が外国人留学生を採用しています。ライバルは留学生という時代に重要なのは、受動的な若者をいかに主体的、能動的に動けるようにしていくかということです。大学は入学がゴールではなく、卒業をゴールととらえるように国全体で変わっていく必要があります。

**宮本** アクティブラーニング（能動的学習）の視点を取り入れた授業改善など、教育の流れを大きく変えて行こうという雰囲気が出ています。高校での多様な学びの成果をきちんと評価する入試が実現すれば、高校教育も本当に大きく変わることができると思います。

**山口** 米国などのように、高校段階で大学レベルの学習ができ、大学入学後の単位も取れる仕組みがあるといいですね。北大では将来的に、ネットによる学習、e ラーニングを活用し、大学から高校生に「こういう勉強をしてみたら」と発信する仕組みを考えています。高校との連携が進めば、大学入学後の教育もスムーズになり、ゆとりができて海外留学もしやすくなるのではないのでしょうか。高校生の若い純粋なエネルギーを受験勉強だけに向けるのはもったいないと思います。